

「伝統工芸 青山スクエア」

南青山でディスプレイ・ジャパン！

美しき暮らしの

工芸と出会う

撮影／鈴木彦 スタイル／横瀬多美保 ヘア&メイク／AKANE 取材・文／鈴木博美

和と洋の垣根を軽やかに飛び越え、時代の風をまとったエレガントなテーブルを楽しんでる横瀬多美保さん。その魅力的なコーディネートの中で、力強い味方となっているのが、伝統的な日本の手仕事によって作られた工芸品です。

今回ご紹介するコーディネートは、多彩な工芸品と出会える「伝統工芸 青山スクエア」で見つけた品々をアクセントにしたもの。「素材の美しさを最大限に生かした木工芸品などは、どんなものと

も調和します。リラックスした雰囲気も持ち味ですね。江戸切子や江戸硝子は、西欧のクリスタルガラスと並べても引けを取らない迫力があります」と横瀬さん。洋のテーブルウェアと組み合わせることで、生活空間の中に溶け込ませ、新たな表情を引き出しました。伝え継がれてきた技と日本の美意識を宿した工芸品は、暮らしに豊かさをもたらします。皆さまも、手仕事によって作られたお気に入り逸品を探してみてくださいはいかがでしょうか。



和洋を織り交ぜたおもてなしテーブル

左ページ・ワインを楽しむランチの集いに、大地を思わせるブラウン系の色彩を基調にしたシックなコーディネート。花器として中央に配したのは、庄川挽物木地「ケヤキ深鉢」7万円。蓋がガラスになる可愛いフォルムの酒器にワインを入れて。江戸硝子「こけしが酒器」8000円。

右ページ上・前菜を盛った江戸切子の器。大胆なカットで表現された柄は、すべて日本的なモチーフから着想を得たもの。右上から時計回りに、市松、かまぼこ、氷柱、八重菊。蓋は小皿として使うこともできる。「蓋ちょこ」各2万円。

下・外側をマットでグレイッシュな質感に仕上げた樺細工の箱。スイーツと茶器を支度しておき、食後はスマートに食卓上へ。「樺材のボックス」(小)約幅13×高さ5.5×奥行18.5 9500円、(大)約幅14×高さ7×奥行20 1万500円。



杉の桶を主役に、清々しさが漂うコーナーを

デザートやドリンク類のコーナーとして、食卓の傍にトレストランドをセッティング。秋田杉桶樽が、清々しい雰囲気を演出する。笹寿司を入れた「半切桶」直径約27×高さ7.5 1万円。お酒を入れたポットのクーラーとして使ったのは「桶(小)」直径約18×高さ7.5 6000円。柑橘を盛ったのは、「桶(中)」直径約21×高さ9.5 8000円。さらにガラスや銀の硬質な輝きでスタイリッシュさを加味。江戸硝子の「大正浪漫 鉢」各6000円。東京銀器の「銀製レンゲ」梅柄9000円、竹柄1万円。